

委員会行政視察報告書

大崎市議会 調査活動概要報告書

1. 視察概要

委員会名	民生常任委員会
委員名	横山悦子、木村和彦、中鉢和三郎、富田文志、氏家善男、豊嶋正人
日時	平成29年11月6日(月)～平成29年11月8日(水)
視察先	1. 愛知県岩倉市 2. 三重県鈴鹿市 3. 愛知県小牧市
出席者 (説明者)	1. 岩倉市長寿介護課 原課長、浅井主査、高橋主査 2. 鈴鹿市健康福祉部健康づくり課 伊藤課長、中川成人保健リーダー 3. 小牧市健康福祉部介護保険課 松永課長、河原課長補佐、小林係長

2. 視察内容

視察項目	1. 徘徊SOSネットワーク事業について(愛知県岩倉市) 2. がん検診推進事業(無料クーポン券事業)について(三重県鈴鹿市) 3. 地域密着型サービスについて(愛知県小牧市)
視察内容	<p>1. 徘徊SOSネットワーク事業について(愛知県岩倉市)</p> <p>岩倉市の高齢者の現状は、高齢化率が24.6%となっており、徘徊高齢者の実態としては、移動手段について徒歩が75.6%と非常に高いという特徴があります。</p> <p>岩倉市の徘徊SOSネットワーク事業の現状としては、発見場所は市内での発見が57.1%であり、発見者は親族及び警察以外が40%を超えています。また、この事業の傾向として、発生から通報まで平均7時間以上かかっています。要因としては、発生時の家族等の発見者の判断、まずは自力で探すという思い、周りに迷惑をかけたくないという思いが通報を遅らせていました。情報を早く発信することで、周りの協力が得られ、早期発見にもつながるため、高齢者を地域で見守るという意識を高めるための啓蒙活動にも力を入れています。</p> <p>事業の支援協力事業者との連携については、「岩倉市高齢者地域見守り協力に関する協定書」を締結している事業所が平成29年10月現在で21事業者であり、事業者の内訳としては金融機関が9件、郵便局が2件、新聞店が7件、生活協同組合が3件となっています。</p> <p>また、徘徊情報は登録者へ徘徊情報メール「岩倉市ほっと情報メール」として送信し、市民及び地域とのネットワークの構築、情報共有を実施しており、登録者は平成29年10月現在で766件となっています。なお、市職員については基本的にメール登録をしている状況です。</p> <p>徘徊SOSネットワーク事業を含む高齢者見守り事業については、岩倉市だけの取り組みではなく、愛知県全体として目標の事業を展開するなど高齢者見守りを進めている</p>

ます。

岩倉市独自の認知症に関する施策としては、認知症に対する理解を深めるための映画上映会を実施し、平成 29 年度は映画「ペコロスの犬に会いに行く」の上映を行っています。

あわせて、認知症に関する学習会を開催し、その学習会の中心になっているのが「スクエアステップ講座」というもので、指導者のステップパターンを見て覚え、自分でステップしながら前に進む運動です。認知機能が向上し、転倒予防などに効果がある運動で、「遊びごころ」のある新しいエクササイズとして、参加者も非常に多い状況にあるとのことでした。

2. がん検診推進事業(無料クーポン券推進事業)について(三重県鈴鹿市)

鈴鹿市では、平成 26 年より胃がん検診の受診率向上のため、一定年齢の者に対して、胃がん検診の無料クーポン券事業を実施しています。

胃がん検診推進事業(無料クーポン券事業)開始の背景としては、平成 24 年度までの胃がん検診結果から、受診率が低かったことにより、受診率向上を目指し無料クーポン券事業の検討を関係課で開始し、平成 26 年度から事業開始しています。

また、各種がん検診については、例年、鈴鹿市医師会と検討会を実施しており、医師会より胃がんリスク評価(ABC検診)の要望が出されたため、平成 26 年度より、一定年齢の者を胃がん検診無料クーポン券対象者として、胃がんリスク評価(ABC検診)もあわせて実施しています。なお、市の胃がん検診実施は、保健センター等で実施する集団検診と、市内の指定医療機関で実施する個別検診があり、胃がんリスク評価(ABC検診)は指定医療機関のみでの実施としています。

①将来において鈴鹿市の胃がん死亡率を低下させる、②胃がん検診とABC検診を組み合わせることで胃がんの早期発見を行う、③ABC検診とピロリ菌感染の有無を調べ、除菌につなげることにより胃潰瘍、十二指腸潰瘍の再発及び胃がん発生のリスクを減らす、④胃がん発生のリスクを調べることによって、継続的な胃がん検診受診を促すという4つの目的を掲げ、対象者を胃がん検診受診者のうち前年度に 40 歳、45 歳、50 歳、55 歳、60 歳になった者(ABC検診は希望者のみ)として、5年間を目途に実施する方向で、受診率向上のため自己負担額は無料で実施しています。40 歳以上の検診の普及啓発のきっかけづくりとしての意味合いもありますが、前年齢対象では財政的負担も大きいと、年齢で区切っている状況でした。

事業実施以前の胃がん検診受診率は、平成 24 年度の 13.9%、25 年度の 16.0%に対し、事業実施後は 26 年度で 19.2%、27 年度 21.0%、28 年度で 20.9%となり、向上している状況にあります。

クーポン券作成に当たっては、対象年齢の5%が外国人国籍のため、スペイン語、ポルトガル語に翻訳を行って対応しているとのことでした。

3. 地域密着型サービスについて(愛知県小牧市)

介護保険事業の中で、地域密着型サービスは、高齢者が中重度の要介護状態となっても可能な限り住み慣れた自宅または地域で生活を継続できるようにするためのサービスであり、身近な市町村が主体となり提供されるべきサービスとして創設されています。サービスの種類は12種類となっており、要介護1から要介護5と認定された方が利用するサービスとなります。要支援1、要支援2と認定された方は、地域密着型介護予防サービスを利用することになります。

地域密着型サービス12種類のうち、小牧市において実施しているのは、定期巡回・随時対応型訪問介護看護、地域密着型通所介護、認知症対応型通所介護、介護予防認知症対応型通所介護、小規模多機能型居宅介護、介護予防小規模多機能型居宅介護、認知症対応型共同生活介護(高齢者グループホーム)、介護予防認知症対応型共同生活介護(高齢者グループホーム)、地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護の9種類となっています。

小牧市の高齢化率は、愛知県内でも下から2番目に低く、人口規模は大崎市と同程度ですが、年齢構成には大きな違いがあり、サービス対象者も少ない状況にあります。小牧市では小学校単位でのスポーツクラブの創設、老人会での早い時期からのスポーツ振興策の展開をしており、予防につながっているとの見解を持っていました。結果として対象者が少ない現状の中で、介護保険料の抑制にもつながっています。

小牧市の要介護者及び要支援者数の内訳は、平成27年度の数値で、総勢3,944人のうち、要支援者1が911人(23%)、要支援2が733人(19%)となっています。大崎市においては同年度で総数7,350人のうち、要支援1が919人(12%)、要支援2が713人(10%)であり、高齢化率の違いから一概に比較できるものではありませんが、同程度の人口規模ながら、介護保険分野における差は少ないものでありました。

小牧市では、他自治体と同様に、介護職の人材不足は深刻な中で、現在は介護ロボットの導入も2事業所がエントリーし、行っている状況にあります。しかし、機器が使用しにくいとの報告もあり、今後の課題も多いのが現状です。

考 察

1. 大崎市においても平成29年度より担当部署を設け地域包括ケアシステムの構築に向けた事業を展開している中で、岩倉市のネットワークづくり並びに認知症に関する施策は参考とするところが多いと感じました。

あわせて、岩倉市においても愛知県全体でのネットワークづくりがあることを踏まえ、大崎市の広大な面積や、移動手段が自動車や自転車などを利用することも岩倉市と比較すると多いと思われることを考慮すると、周辺自治体や宮城県全体などの広域的な取り組みが必要になると感じました。

2. 検診事業の受診率向上が健康増進による将来的な医療費の削減につながることから、鈴鹿市の取り組みを参考にして研究していきたいと考えます。

また、鈴鹿市において集団検診についてのインターネット予約も可としたところ、申込者の3割が利用しており有効な手段として捉えているとのことで、あわせて研究していきたいと考えます。

3. 小牧市と大崎市は、同程度の人口規模ながら、高齢化率を含めた人口移動形態推移には差があり、高齢者福祉の問題も大崎市ほど逼迫したものではありませんが、2025年問題、介護職の人材不足の問題などを抱えている点では類似していました。

また、生涯のスポーツ振興の取り組みが、高齢者福祉事業にもたらす影響も大きいと思われ、小牧市の取り組みは大崎市においても参考にすべき取り組みも多いと感じました。

以上